

## 第7回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

I 日 時 平成25年12月3日（火） 10:00～12:00

II 会 場 千葉市総合保健医療センター4階 会議室

III 出席者

（委 員）杉田委員、碓氷委員、菊池委員、久保田委員、小池委員、加瀬委員、  
夏目委員、野口委員、渡邊委員、今関委員、浅野委員、田中(悦)委員、  
桐岡委員、山口委員、岡田委員、高塚委員、田中(和)委員 計17名

（事務局）発達障害者支援センター：仲村支援員、坂田支援員

障害者自立支援課：神津課長補佐、塩原主査、安達主事

千葉市療育センター：三代川事務局長補佐

IV 配付資料

資料1 年度別実績報告一覧表（平成21年度～平成25年度）

資料2 平成24年度 事業報告

資料3 平成25年度 事業経過報告

資料4 発達障害者支援センター運営マニュアル

V 議事概要

（1）平成24年度、事業報告について

事務局より、資料1～資料2に基づき説明し、質疑応答を行った。

（2）平成25年度、事業経過報告について

加瀬委員より、資料3と併せて支援センターの活動を報告し、質疑応答を行った。

（3）千葉市の発達障害者支援について

加瀬委員より、趣旨説明し、意見交換を行った。

（4）その他

□ 議事要旨の確定方法について

事務局より、議事要旨について、座長の承認・署名をもって確定・公開することを提案し、出席委員多数の賛同により承認を得た。

VI 会議経過 別紙1のとおり

○ 事務局（坂田）

～開会、資料確認等～

○ 神津課長補佐

皆様おはようございます。障害者自立支援課長補佐の神津と申します。よろしくお願い致します。

本来であれば本課の課長がご挨拶申し上げるところですが、議会中のため出席がかわないということで、代理で私から一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は皆様方におかれましては、ご多忙のところ本会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また皆様方におかれましては、日頃より本市の発達障害者支援の推進にあたりまして、多大なるご理解とご協力をたまわっておりますことを、この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

この連絡協議会につきましては、発達障害者に対する総合的なサービスの在り方や、関係機関との連携、関係機関が抱える諸問題への対応について専門的に協議・検討するために、平成20年に設置され、今回で7回目を迎えております。この間にも委員の皆様方からご意見・ご提案があった「ライフサポートファイル」の作成にも取り組み、千葉市発達障害者支援センターにおける相談支援で活用させていただいております。

また、前回の連絡協議会で通常学級、普通校に通われている発達障害のある児童、生徒達への継続的な支援を検討する上では、通常学級に関わりのある教育関係の方にも委員としてご参加いただけないかというご意見を頂戴致しましたので、今年度新たに、小中学校の通級教室の先生方にも委員としてご参加いただいております。後ほどになりますが、新委員の方につきましては事務局からご紹介させていただきます。

本日は発達障害者支援センターにおける様々な取り組みについてご報告申し上げますと共に、委員の皆様方にはこれを共有いただきまして、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

むすびになりますが、発達障害者支援センターの行う支援の充実、並びに本市の発達障害者支援施策の推進にあたっては本連絡協議会委員の皆様からのご意見が不可欠であると思っております。引き続きご指導、ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

○ 事務局（坂田）

～新委員紹介～

続きまして、次第の4議題に入らせていただきます。以降の進行は杉田座長にお願いいたします。

○ 杉田座長

千葉大学の杉田です。今日はぜひ活発なご意見をいただきたいと思います。日本は行政サービスに対する評価をしない国です。ぜひ税金で行っているサービスに対しては一

般の納税者が、そのサービスが適正に行われているかどうかを評価し、忌憚のない意見を皆さんから発言していただけるように座長として心がけたいと思います。

では本日の議題に入らせていただきます。12時頃を目安に閉会したいと思いますので、ご協力いただければと思います。

ではまず第一に『平成24年度、事業報告について』説明をお願い致します。

## ○ 事務局（仲村）

～資料1・資料2の説明～

## ○ 杉田座長

ありがとうございました。

ただいまの報告について、質問や意見はございますか？

## ○ 碓氷委員

市立養護学校の碓氷と申します。具体的に相談支援が進み、とてもいいことだと思っています。継続支援がとても大事だと思いますので、乳幼児、幼稚園等のペアレントトレーニングのように、小学校・中学校に進んだ時に学校現場でどのような支援ができるかも今後の課題として検討していただければと思います。

## ○ 夏目委員

私共の法人には地域活動支援センターⅠ型、相談支援部門があります。ある普通校の小学校低学年の親御さんから、補助の先生がついて何とか授業展開しているが、なかなか子どもも落ち着かず、先生もとても苦労されているといったご相談があります。

私共は知的障害の方達を中心に対応させていただいています。特別支援学校では何かあると担任や私共の職員、行政が支援会議をその都度行っていますが、普通校の場合にはなかなかできていません。相談担当の職員は、普通校でどういうことが行われ、どういう苦労があり、私共がどういう風に関わっていくべきなのかが全然わかりません。要するに普通学校から声があがってこないという報告を受けております。

せっかくこういった機会があるので、もう少し普通校からも発信していただいて、私共福祉にも声をかけていただく、あるいは支援センターにコーディネートしていただいて、支援会議あるいはケース会議を開くことができないかと思います。

## ○ 杉田座長

ご質問はその都度、またお受けします。大切な点が2点ございましたので、まず支援センターから継続支援の中での教育へのアレンジについてお願いします。また学校関係者が具体的にどうするかということも聞きたいですので、教育関係の方から回答をいただければと思います。

## ○ 加瀬委員

はい、加瀬です。よろしくお願い致します。

碓氷委員からご質問のあった継続支援に関してですが、厚労省への報告では年度初めでまだ1カウントになりますので継続相談の方も多く含まれています。全て新しい方ではなくて、何年も継続してご相談をお受けしている方も含まれていますことを御承知おきいただければと思います。

小中学校との連携に関してですが、個別ケースにおいては実際に学校の授業の様子を見学後、担任や教頭先生を交えてカンファレンスを開くなど、連携を取らせていただいているケースは数多くあります。また養護教育センターも交えて行うこともあります。問題は養護教育センターの支援が終了する高校になってからですが、普通校もしくはサポート校の先生とは個別の支援の中で連携を取らせていただいています。

ただし夏目委員からお話があったように、どこの学校でもスムーズに取り組めるわけではなく課題だとは思っています。その点に関しましては委員の方からご意見をいただいて、今後の支援センターで取り組んだ方がいいのか、それとも各自で取り組んだ方がいいのかご意見いただければと思っております。

## ○ 杉田座長

本日は養護教育センターの方はお休みです。義務教育終了後、学校側の関わりをどのように教育側が考えているかご意見いただければと思います。

## ○ 浅野委員

養護教育センターに3年前まで勤めておりました。今のご意見ですが、まず養護教育センターに相談するというケースは大変多いです。関係者会議も養護教育センターと児童相談所、学校とで年間に何度か課題のある子については開くことはあります。

学校から相談機関への発信ですが、ケースによっては相談機関に発信をした経験があります。発達障害者支援センターと養護教育センターの両方に相談をしているケースというのはけっこうあります。養護教育センターは義務教育終了までが守備範囲ですので、それ以降、発達障害者支援センターや相談機関の役割は大変に大きいと感じていました。

## ○ 杉田座長

ありがとうございます。引き続きまして質問、ご意見があればお願いします。

## ○ 菊池委員

お世話になっております。自閉症協会の菊池と申します。よろしくお願い致します。

18歳以上の方の相談が全体の65.5%とあり、18歳以上では二次障害を想像してしまいましたが、二次障害になってからの対応はとても大変だと思います。その前の段階でもっと対応できないかと思っています。教育も大事ですが、その前の3歳児健診の時にグレーゾーンのお子さんにはどういう対応をされているのでしょうか。

社会性に関しては3歳までに視線を合わす訓練をと言われ始めていますので、年中児への対応はとてもありがたいです。今までなかった画期的なことです。以前は親の困っ

ていることに寄り添って聞くことでよかったと思います。今はグレーゾーンのお子さんに対して、どのようにしたらよいか具体的なことを望んでいますので、どう対応されているのか伺いたいです。

もう1つは事業報告を伺っていて、マンパワーがとても足りないと感じました。その中で頑張れば頑張るほどやりたいことが出てくるので、マンパワーの足りない部分をどうやってフォローするかが大事だと思います。支援センターが個別対応をしていくのか、人材育成をしていくのか、方針を伺えたらと思いました。

## ○ 杉田座長

加瀬委員、お願いします。

## ○ 加瀬委員

当初から直接支援を中心に取り組んできてはいますが、実際には直接支援1本では現実的に難しいというのは現場でも同じ意見です。直接支援がゼロになってしまうと現場の状況の確認ができなくなりますので、直接支援を減らしながら間接支援を行い、支援者育成も含めて、皆様からいただいている意見を元に今後、反映していきたいと思っております。基本的には直接支援は残していきますが、間接支援、関係機関との連携も含めての具体的な方向性は4月から考えてはいます。現実的に取り組みを進めていくには、この後の議題の中でも出てくる話をいただいた上で、改めて具体的な検討に入らせていただきたいと思います。

グレーゾーンのお子さんへの対応についてですが、年中児集団行動観察は発達障害の方を抽出することを目的とはしていません。他の障害の方も含めて、幼稚園の中で先生が対応に困られているということもあり、平成22年度に試行して、平成24年度から開始しました。ご質問の中に具体的な対応を求めているというお話がありましたが、どのように家族が取り組んだらいいのかというご相談は増えてきています。ペアレントトレーニングの手法などを活用しながら、個別支援で取り組んでいるのが現状ではあります。対応として不足している部分、千葉市としてどのように進めていくかに関しては改めて検討の余地はあるかと思っております。

3歳児健診に関しては委員の方からお願いします。

## ○ 杉田座長

高塚委員、お願いできますか。

## ○ 高塚委員

健康支援課の高塚と申します。3歳児健診で発達障害を含め、発達等をご心配されている方については継続的な支援をしています。具体的な関わり方については保健師も十分ではありませんが、わかる範囲で保護者へお伝えしています。また臨床心理士による相談の場がありますので、そちらでその子に応じた関わり方についてのご相談を受けております。より専門的な療育や指導・助言が必要な場合には専門機関である療育センターや発達障害者支援センターをご紹介させていただいているのが現状です。

発達障害につきましては、法律が施行されて以降、健康課等で発達障害についての勉強会を積み重ねています。発達障害者支援センターの開催する研修や年中児集団行動観察に保健師も参加し、具体的な対応方法を学ばせていただいています。

来年度から1歳半健診の問診票に発達障害、コミュニケーション、社会性に関する質問項目を追加します。また、今年度から来年度にかけて、より具体的な知識や支援に関する研修を予定しています。1歳半頃のお母さん達のご相談にも応じていけるよう研修を重ねていきたいと感じています。

### ○ 菊池委員

具体的にグレーゾーンのお子さん達に療育を施す、集団で療育を施す、個別で療育を施すといった場面は設けられない、設けてはいないということですか？

### ○ 高塚委員

療育は現状では健康課の中で行っていません。どこまでを「療育」と言うかもありますが、日頃の保護者の関わり、パニックを起こした時にどう対応するかなど、各場面での対応については今までも個別にご相談をお受けしています。発達に関する特異な点等を総合的に診断し、それに基づいてプログラムを立てていく療育は健康課としては実施していません。

### ○ 菊池委員

もう少し親御さんや子どもさんへのフォローがあると親は安心すると思います。定期的に相談にのってもらえるのと、何かがあった時に行くのとでは少し違うと私は思っています。各保健センターの中にダウン症のお子さんのグループがあります。グレーゾーンのお子さんにも、親も勉強でき、子どもも少し見てもらえるという場があればと思っています。それを今はどこの区も実施はしていないですね。

### ○ 高塚委員

現在、そういった場、事業としてはありません。

### ○ 菊池委員

私はその場がとてもほしいと思っています。親の不安はとても大きいです。外に出す顔と本当の顔が違っていたりするので、親御さんがどう感じるかまでフォローしてもらえるとありがたいと思っています。二次障害は子どもだけでなく親にもあると思います。親は不信感しか持てなくなってしまうので、そこをどう乗り切っていくかがとても大事で、教育にすんなり入るかどうかのポイントだと思います。

### ○ 杉田座長

ポイントだと思います。ぜひ3歳児健診は受付業務で終わらないようにして、健診現場での母親へのサポートをより拡充していただければありがたいと思います。

他にご質問はいかがでしょうか？

## ○ 岡田委員

こころの健康センター岡田と申します。よろしくお願い致します。

先程、18歳以上の方は二次障害が多いのではないかというお話もありましたが、こころの健康センターでもそういった方のご相談があります。また、統合失調症と診断された方の中には発達障害がたくさんいるとも言われていますので、大人の方についてはこちらに足を運ばれているという現状もあるかと思います。

個別についてはよく連携を取らせていただきありがとうございます。今後は個別だけではない連携を取りたいと思っています。具体的には後程ですが、例えば講演会などに講師派遣という形で来ていただき、その後の家族ミーティングでファシリテーター的に参加いただけたら私共も勉強になります。今後、そのような形で連携をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

## ○ 杉田座長

ありがとうございます。では引き続き、事業経過報告をいただきながら、また質問や意見をいただきたいと思います。では『平成25年度 事業経過報告』の説明をお願い致します。

## ○ 加瀬委員

～資料3～の説明～

## ○ 杉田座長

ただいまの報告につきまして、何かご意見、ご質問ありますか。

## ○ 碓氷委員

何点かあります。まず相談支援ですが、「発達障害を疑って相談に伺う方」とありますが、その方達がどうしてそれを知ったかというきっかけを知りたいです。

また、学校現場で特別支援教育がスタートして5年です。18歳以上ではおそらくそれを経験せず、二次的な障害、疲弊した状態で本人、保護者が相談にのってくれる場を求めて来ていると思います。早期発見・早期支援ということで動き出したことはとても嬉しいことだと思っていますが、18歳以上や高校2、3年生の方達をどうしたらよいのかと思っています。養護教育センターでは18歳以上は扱っておりませんので、当然、特別支援学校にはセンター的機能がありますので相談がきます。1人で学校や一般の方達の相談を受け切ることは不可能ですので、発達障害者支援センターが大きな役割を持つてくるのではないかと考えております。後数年はそういう方達がいるということを想定し、何か策を練っていただければと思っています。

## ○ 加瀬委員

まず、どのようにして発達障害者支援センターを知るかですが、TVや新聞の記事、色々な相談機関で発達障害者支援センターの名前が出る機会が増えてきています。また、平成22年から行っている自閉症啓発デー等で発達障害者支援センターの名称の入ったチ

ラシを配布したりしていますので、そういったものを見て来られている方もいらっしゃいます。インターネットで発達障害・千葉市で検索をすると千葉市発達障害者支援センターか千葉県発達障害者支援センターがヒットします。相談受付票に「どのようにして知りましたか？」という項目がありますが、インターネットと書かれる方も多く、インターネットを通して知れ渡っているようです。昨年頃から増えてきたのは医療機関からの情報提供です。診療情報提供書を元に今まで関わってきていない医療機関からの紹介も増えてきているのが現状としてはあります。

2点目ですが、中学校までは養護教育センターと連携を取っていますが、高校生の支援というものをどう進めていくかは課題だと思っています。現状としては個別支援中心になっておりますので、個別支援だけではなく、研修会を含めて来年度以降に反映ができるようにしていきたいと思っています。

#### ○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

#### ○ 久保田委員

千葉発達障害児者親の会コスモの久保田です。年中児集団行動観察は昨年の6園よりも減ってしまっているのでしょうか？

#### ○ 加瀬委員

はい。各区1園でお願いをしていましたが、今回は様々な事情の中で現実的には5園で今年度は終了の予定です。

#### ○ 久保田委員

それは毎年、同じ園でやっていらっしゃるのですか？

#### ○ 加瀬委員

違います。幼稚園協会の中にある統合保育推進小委員会に4月早々に書面でご説明させていただいて、後は委員会の中で各区1園あげていただくよう協力をお願いしています。その結果、今年度は5園ということです。

#### ○ 久保田委員

とても良いことだと思いますので、全園で行っていただきたいものです。最初に発見され「あなたの子は障害者です」と言われると非常にショックで、その園や診断した人を恨む傾向があるような気がします。そういったこともあって引き受けてくれる園がないのだとすると少し悲しく思います。実施する意義を訴えていって、色々な園がぜひうちの園でやってほしいと手をあげてくれるような方向に持っていっていただけたらと保護者としては思います。



○ 加瀬委員

貴重なご意見、ありがとうございます。

○ 杉田座長

他にいかがですか。

○ 今関委員

花見川第三小学校でLD等通級指導教室を担当しております今関と申します。貴重なご意見を色々伺って、とても勉強になります。支援センターには学校でのお子さんの様子を見ていただいて、一緒に支援の方法を考えたりなどもしております。

ペアレントトレーニングには潜在的なニーズがあるとお話ですが、その通りだと思います。保護者の方は家庭での対応について、どうしたらいいかという思いを持っております。仕事をしていたり10セッション全部に参加することが難しい保護者も多数いるかと思えます。通級指導教室では子ども達のグループ指導をしておりますが、保護者送迎なので待ち時間があります。そういった時間は保護者同士が交流をし、共感の場にもなっています。もし支援センターで出張して、1回でも2回でもいいので、上手な接し方のお話をしていただければ、各通級指導教室の担当としてぜひ活用させていただきたいと思えます。よろしくお願い致します。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。報告でもあったように講師派遣は可能ですので、具体的には個別にご相談させてください。連携の仕方についても、もう少しわかる形で取り組んでいくことが必要だと思いますので、こういったご意見は重要に考え、より具体的に進めていけたらと思っております。ありがとうございます。

○ 杉田座長

それでは千葉市の発達障害者支援について、加瀬委員からお願い致します。

○ 加瀬委員

事前に11月22日付で発達障害者支援センター運営マニュアルを送付させていただきました。簡単にご説明させていただきますが、全国発達障害者支援センター連絡協議会という全国組織があり、今年の全国大会で配られたものを全て印刷してあります。この運営マニュアルを元に、今後の発達障害者支援センターの運営方法や取り組み方を各支援センターで検討に入ることが全国大会で確認されています。

今回は運営マニュアルに関して、現状や皆様のお考えなどを伺えればと思っております。今後の千葉市発達障害者支援について忌憚ないご意見をいただいた上で、今後の施設運営に活かしていけたらと思っております。時間が限られていますので、お一方2、3分程度でお願いできればと思えます。それでは指名させていただきますが、夏目委員からよろしいでしょうか。

## ○ 夏目委員

やはり今までのご意見にありましたように、どのようにしたら連携をもっと密にしていけるのかを考えております。23ページの5章にも連携と書かれております。お互いに相談の場があれば、私共もそこに参加していくことも十分に可能であると思っております。連携については大いに期待するところであります。

## ○ 久保田委員

コスモの久保田です。25ページ「発達障害者支援システム（児童）」の下から2行目「具体的なサービス等利用計画や個別支援計画の作成のアドバイスや支援プログラムのための情報を提供していくことは、支援に大きな効果を生み出すものである」とあります。個別支援計画を実際に作ってもらった人の話を聞いたことがなく、養護教育センターで相談した時にも、特に義務化されていないから誰が作るかも明確にされていないということでした。医療関係、教育関係、支援センターのどこにお願いしたらいいのかわかりません。親が作るのでしょうか？そうであればそのための勉強会等もしていただかないと難しいです。

この協議会でもライフサポートファイルを作り、実際に自分が相談に行く時は持って行くようにはしていますが浸透していないと感じています。時間の問題もあるので、パッと見てわかるものが必要だろうと思います。これを作るには親もかなり勉強しないといけません。自分の子がこういう子だとわかっていて、こうした活動をして、色々な勉強会や講演会に出て勉強している身でも難しいと思います。

## ○ 小池委員

千葉障害者職業センターの小池と申します。私共のセンターに来られる方は、特に若年でもなく30代、40代という年齢で、うつや躁うつなどの二次障害を抱えているが、根には発達障害があるのではないかという方が日に日に多くなっているような状態です。二次障害だけが自分の障害だと思っていられる方々に対してのサポートが必要ではないかと思います。自分の何が困っていたのか、困っていないと思っていたけれど実は困っていたと認識できるような機会が必要であり、発達障害者支援センターだけでなく、こころの健康センターとも連携を取らせていただけたらと思います。そういう生き方を30年40年してこられた方々に「それは障害です」と言ったところで何も変わらないので、サポートを何か形にできればと思います。こちらからの一方的な意見ですが、ぜひご協力させていただきたいと思いますのでお願い致します。

## ○ 桐岡委員

千葉市障害者相談センターの桐岡と申します。私は知的障害者支援班に所属しております。主に18歳以上の方の療育手帳の判定業務をメインにやっています。発達障害者支援センターから18歳を超えて、知的障害ではないかということで紹介されるケースがあります。それについては私共の業務のやり方で判定をさせていただいています。それを通して思いますが、発達障害者支援センターにおけるアセスメントがどうあるべきかということです。先程の実績にもありましたが、明確な診断を受けない形で発達障

害者支援センターに相談にいらっしゃる方がかなり多くて大変驚くデータだと思います。そういった方が発達障害者支援センターに相談にいった時に、医者がいない状況だとは伺っていますが、アセスメントはセンターでは行っていないということでしょうか。

### ○ 加瀬委員

成人期になればなるほど、ご家族がいらっしゃる中での相談になり、本人の意向として話を伺いますので、アセスメントが確実にできていない部分もあるかとは思いますが。18歳以上の方に関しては、全て聞き取ることがいい支援につながらないこともありますので、まずはご本人達が話しやすいところから進めていきます。その中で実際には未診断、発達障害かもしれない、疑いありくらいからスタートすることもあります。実際には医療との関係を密にしながら、成人の方は進めているのが現状です。

### ○ 桐岡委員

知的障害は福祉的なベースから言いますと、発達期、18歳以前に何らかの原因で知的障害になった方が福祉制度においての療育手帳を取れる要件になっています。18歳以前に知的障害があり、今後も支援が必要となれば、交付、程度も決定していきます。30～50歳になって、療育手帳の判定にいらっしゃっても、どの支援に乗せたらいいのか結論が出しにくく、特にセンターからの紹介ケースは迷うケースが多いです。更に精神的にも非常に危うく、こころの健康センターでも相談したことがあるといった方が来ることがあります。発達障害のあるなしも含め、アセスメントをどこが担うべきなのかということが、私共のセンターも含めて、行政としては考えるべきところに来ている感じがしております。このマニュアルの中にアセスメントも盛り込まれていましたので、今後、センターでもご検討いただければありがたいです。また、私共センターとの連携の仕組み自体ももう少し考えていけると感じております。

### ○ 杉田座長

それでは時間も限られていますので、今まで発言されていない方を先にコメントしていただいて、時間が余りましたらそれ以外の方にもお願いします。

### ○ 田中(悦)委員

保育運営課の田中と申します。私共は保育所を中心に障害児の支援をしています。発達障害は平成22年度から千葉市も障害児として対応していますが、近年、人数は増えてきています。先程、保護者の立場からのご意見がありましたが、1歳半、3歳で対応が難しいお子さんを発見していても保護者への伝え方は難しいです。育てづらいといった悩みを抱えていても、一歩が踏み出せない状態の保護者も多くいらっしゃいます。お母さんの気持ちに寄り添い、お子さんを理解していただけるように日々対応しています。

59ページに「健診後の育児教室や親子教室による支援が行われる。その中に家庭療育支援講座が組み込まれている」とあります。改めてハードルを越えたところで対応の仕方を学ぶのではなく、お母さん達が参加して自然に知っていただけるような場があると、育てづらさや関わりづらさが早い時点から解消されていくのではないかと思います。

派遣研修等が可能であれば職員も参加し、対応の仕方を学んでいくことで、社会と関わりづらいお子さんがスムーズに集団の中で過ごしていけるような支援ができればと思いました。

## ○ 渡邊委員

末広中学校のLD等通級指導教室を担当しております渡邊と申します。たくさんお話をお聞きし、本日は勉強させていただいております。

LD等通級指導教室に通級してくる生徒は全員診断名がついております。昨今、発表された通り、通常の学級に発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする生徒が6.5%いるということで、この子達の困り感と寄り添ってどう支援をしていくかが学校現場では課題となって取り組んでいるところです。

困っているのではないかと思っても、それをどのように保護者に伝えるか、どのように関係機関につなげていくかは、重要で深刻な難しい問題だと感じています。資料の25ページにもありますが、発達障害者支援システムでは支援していく機関がたくさんありすぎて、どこに相談に行ったらいいのかわからないということがあると思います。ある機関だけでクローズせず、それぞれの機関、あるいは教育現場も医療も地域も連携していかないと、子どもと保護者の困り感には寄り添えないと、改めて感じました。

## ○ 田中(和)委員

稲毛区高齢障害支援課の田中と申します。今日、初めてこちらに出席し、色々な意見等を聞かせていただきまして大変勉強になりました。保健福祉センターと致しましては、やはり発達障害者支援センターといかに連携を取っていくか、いかにしたら密になるのかということを考えていかなければならないと思いました。

## ○ 岡田委員

こころの健康センター岡田です。思春期保健相談では不登校、ひきこもりのお子さんの相談もあります。ひきこもりは4分の1ないしは3分の1が発達障害だろうと言われていることもありますが、思春期、義務教育を終えた高校生年代以降の不登校やひきこもりの方には発達障害ではないかと思われるような方もいらっしゃいます。大人の発達障害を診てくれる医療機関はなかなかありません。診てくださる医療機関があったとしても、精神科受診に抵抗なさる方もいらして、最初の一步が難しいという現実を感じています。服薬が必要な状況では自分も辛いので精神科、心療内科の受診に抵抗なくても、そういった状況がない状態では精神科への受診に抵抗する気持ちはわかります。こころの健康センターとして診断をつける、まして障害者手帳の診断書を書くということではできないので、やはり医療機関の問題は感じているところです。

## ○ 山口委員

児童相談所の山口と申します。児童相談所として関わるのは、幼稚園から発達に問題があるのではないかとと言われて来られる親御さんから、小学校までは順調だったのに中学校になって急に変わり、もしかしたら発達障害ではないかと相談に来られる親御さん

など、色々なステージでいらっしゃいます。その中で具体的な関わり方をお伝えしてはいますが、障害があるのではないか、発達に問題があるのではないかと言われた時に、親御さんは気持ちが沈まれて、もう何も考えられないといった状態で来られることが非常に多いので、最初はそこに寄り添っていくことから始めていくのが私達の職務と思っています。

児童相談所は子どもの支援ではありますが、やはり親御さんへの支援でもあります。子どもだけでなく親御さんについても、支援センター、こころの健康センター等と情報共有、情報交換をして、できるだけいい形で先に先につなげていけるようなやり方ができればと思っています。25ページに様々な機関がありますが、中には全て行きつくしてから相談所に来られる方もいらっしゃいます。行った先々で色々な相談の仕方をされていると思うので、できるだけいい形でつなげていくには、意見交換よりは少数でもいいので、こまめにできるような仕組み作りを検討していかなければいけないと痛切に感じました。

## ○ 野口委員

民間保育園協議会の野口と申します。私共は保育士の質の向上ということで、毎年、CASや療育センターに来ていただいています。機関支援を幼稚園だけでなく行っていたきたいと思います。保育園は1歳児がいちばん多くなります。そこから積み重ねができますので、貴重な財産を持っている場所だと思います。連携をもう少し濃くしていく必要があるかと思っています。

先程、菊池委員のおっしゃったように、社会性を身に付けるというのはだいたい2歳前後だと思いますが、その頃は子どもの発達に沿っていくことが必要で、人間形成の上で大事だと思っています。私共は指定管理ですが、子育て支援館をきぼーるの6階でやっております。そこで食物アレルギーの子どもを育て上げた方が、会の中心になってアトピッククラブというサークルを立ち上げて活動しています。私共が何かをしてあげるというよりも、皆で考えるようにしていく、そのためのサポートをしますというスタイルを取っています。無料の施設なので、連携できれば面白いものができるかと思っています。よろしくお願いします。

## ○ 杉田座長

発言を控えていただいた方もいらっしゃると思うのですが、時間もありますのでぜひご意見ありましたらコメントをお願い致します。

## ○ 菊池委員

先程のライフサポートファイルに誤解があるといけません。ライフサポートファイルを書く責任の最後は親だと思います。しかしあれを書くのは容易ではありません。自分の子どもを知っていなければならず、そのためには各機関とつながっていなければなりません。学校の先生とコミュニケーションが取れていないと書けません。最後の責任は親ですが、その親をどうサポートしていくか、強いては子どもをどうサポートしていくかということにつながるので、各機関とは絶対につながっていないとできません。

先程から最初に診断したところについての話がありますが、私は教室をやっており、半分は発達障害の子どもだろうと思っています。ある程度経った時に「文字を書く時にはこうした方がいい」「読ませる時にはこうしなさい」など、具体的に言うと納得されます。「もしかすると発達障害かもしれないから療育センター行った方がいいよ」と言う「ホッとした」と皆さんおっしゃいます。

障害のある子の親だけでなく、周りの親御さんに対しても研修は必要です。「あのお母さんが言っていたのがこういうことなんだ」とわかってもらうことこそが理解と啓発だと思います。講演会の案内は相談者だけではなく、市政だよりへの掲載や各地区の民生委員の集まりに送るなど、関係のないと思われるところにも伝えないと理解と啓発は進まないと思っています。民間保育園協議会に伺ったことも幼稚園協会に伺ったこともあります。皆さん、関心を持ってくださっていますので、働きかけていくこと、働きかけ続けていくことが大事だと思います。

### ○ 杉田座長

他にいかがですか？

### ○ 今関委員

花見川第三小学校の今関と申します。ライフサポートファイルがあるということを初めて知りました。保護者の方からも提示はなく、もしかしたら使いにくいのではないかと思います。

個別指導計画を立てているお子さんは増えています。それを保護者に提示するかということが問題だと思います。目標やこういう手立てでやりますということを口頭でお話しすることはあるかと思います。サポートファイルは医療機関や相談機関でどのような支援を受けているのかが一目でわかりますので、それが積み重なっていくと、連携が見える形でできるかと思います。活用は簡単ではないですが、どうしたらうまくできるかを考えていければと思いました。

### ○ 杉田座長

他にいかがですか？

### ○ 碓氷委員

市立養護の碓氷です。ライフサポートファイルに関してはホームページで検索しないと出てきません。学校やパンフレットの中の一部として、目に見える形であるといいと思います。

子ども達は学校までの送迎サービスが受けられない現状があります。他の市町村ではサービスが認められている場合があります。保護者がなかなか送り出せない、発達障害に関わらず、不登校やひきこもりのお子さんがサービスを利用することで、学校に来られる可能性があります。学校の先生がやることではないとはっきり思っています。行政サービスの1つのポイントとなっていますので、検討していただければと思っています。

## ○ 杉田座長

時間も限られていますが、行政への質問がありましたので、千葉市としてどうでしょうか。今までのコメントも含めて行政側として回答いただきたい。

## ○ 神津課長補佐

まず先程、久保田委員からありましたサービス等利用計画と個別支援計画についてご説明致します。サービス等利用計画は障害者総合支援法のサービスを利用する際に、障害のある方がどういった生活を求めているのか、そしてそれに足りないものは何なのか、これを詳らかにすることで、適切なサービスを受けて、本人達が望む地域生活を送るというために作るものです。その際には障害のある方は自分で求めていることを詳細に説明できれば、よりの確な計画が立てられますが、発達障害や知的障害のある方はなかなかそれを説明し切れないので、代わりに親御さんたちが説明をすることになるかと思います。その際に言葉の説明だけではなく、ライフサポートファイルがあれば、より適切にサービス等利用計画を作成できるかと思います。

サービス等利用計画については、新たな形で再スタートしておりますが、作成できる事業者が少ないという課題がございます。順次、サービス等利用計画を作成する対象者は拡大しております。新規にサービスを利用する場合には対象者となりますので、各区の高齢障害支援課にご相談いただければ、サービス事業者をご案内させていただいております。

学校で作成している個別の支援計画とサポートファイルでは2つの視点で考えていただきたいと思います。学校では学校における生徒の姿しか見えておらず、親御さんは家庭内での本人の姿しか見えていないはずで、それを融合させないと、きちんとした支援計画は作れないという認識に教育委員会も行政も親御さんも立たないといけなと思います。サポートファイルは大変だとは思いますが親御さんに一生懸命作っていただき、それを提供された行政、教育委員会等の機関においては、それを一生懸命に受け止めないと、的確な計画は成り立たないという認識に立っていただければと考えております。

送迎については大きなテーマでございまして、地域生活支援事業の中で個別に議論できる部分ではありますが、莫大な予算がかかる観点からも、他にも市として推進していかなければいけないサービスがありますので、色々と比較検討して進めているところであります。これについては障害企画課で検討していますので、ご意見があった点については報告させていただきます。

## ○ 杉田座長

ありがとうございました。行政からお話をいただきましたが、追加のご発言、ご意見よろしいですか。

## ○ 久保田委員

久保田です。先程、神津課長補佐からお話がありました学校側での個別指導計画についてですが、担任の先生に要望した時に学校ともめました。養護教育センターに間に入っていたのですが、新たに作り直すという形になりました。このやり方では担任

の先生の負担がかなりあると思いました。これをコスモの会の中で話したところ、学校にお願いしてみた方もいたのですが、やってもらえませんでした。学校の様子は指導計画があるととてもよく見えて、学校への信頼感も増し、何かトラブルがあっても、学校に任せておけば大丈夫と思えたので、教育委員会の方がいらっしゃらないので何とも言えないですが、ぜひ色々な子にやっていただきたいと思います。

#### ○ 杉田座長

ありがとうございました。養護教育センターが今日、出席できなかったのは大変、不満が残ります。時間がありませんので、最後に加瀬委員からコメントをお願いします。

#### ○ 加瀬委員

皆様、色々のご意見をいただきましてありがとうございました。ライフサポートファイルに関しては活用されにくいなどのご指摘がありますので、来年度以降すぐにはないと思いますが、徐々に検討に入らせていただきたいと思います。

連携に関しては夏目委員初め、多くの方々から密な連携をとるというご意見もいただきましたので、改めて検討して今後、実際の形として作っていかれたらと思っています。

#### ○ 杉田座長

25ページの発達障害者支援システムについては色々な方からコメントいただきました。それぞれの機関で役割は違うと思いますが、私の希望としてはそれぞれが案件をため込んでいただきたい。職務としてある程度引き受け、何とかできないかというところを前提にした中でこういうリンクがあるのではないかと考えております。

先程から話題になっているライフサポートファイルですが、手段と考えて利用していただきたいと思います。一部、二部、三部と分かれていたと思いますが、最初の方をある程度揃えていただき、ぜひ実際に使っていただきたい。

学校は個別指導計画を作成していると思っていました。私も見たことがありますし、作成している先生はいます。

#### ○ 久保田委員

作成してはいますが、保護者に見せられないので、見せられる形のものを作り直すという感じです。

#### ○ 杉田座長

そうですね。そうするとリンクが切れてしまいますね。どうでしょうか？

#### ○ 渡邊委員

特別支援学校においては必ず開示します。特別支援学級については、開示するかどうかはまだはっきりと決まっていません。個別指導計画はライフサポートファイルの学校版ですが、作成努力目標であって義務ではないという状況です。



### ○ 杉田座長

学校の常識が世間の非常識にならないようにしていただきたいと思います。何のために連携するかというと、共通の情報を共有し合うということであり、その中で学校だけが持っている情報があっていいのかと思います。ぜひ、個別指導計画については教育関係も改善していただけたらと思います。忌憚ない意見として述べさせていただきます。

ライフサポートファイルですが、やはり保護者が自分のお子さんを常にきちんと評価し、どこの機関を利用したかを書いていただけると非常にいいと思います。ぜひ普及していただければと思います。

### ○ 久保田委員

以前は自閉症、LD、ADHDと並列で扱われていた、発達性協調運動障害（DCD）という診断名が消えていっています。不器用さは自閉症の子もLDの子もADHDの子も皆、多かれ少なかれ併せ持っていることがありますので、もう少し支援していただきたいと思いました。千葉県では療育センターで就学前までは作業療法をやっていただけますが、小学校以降はない状態です。小学校になると親が訴えれば、養護教育センターや担任の先生が方法を考えてくれるケースもありますが、だいたいは本人が我慢して済ませている障害だと思います。不器用さを学校の現場でも知ってほしいと思います。わざとではないことが大事になり、叱られてということが学校でとても多いので、不器用さ＝実は発達性協調運動障害というものだと感じて支援していただけたらと思います。

### ○ 杉田座長

ありがとうございます。

### ○ 夏目委員

先程の個別指導計画ですが、開示については校長先生の裁量になりますか。

### ○ 碓氷委員

文科省から努力目標となっているだけです。

### ○ 浅野委員

それぞれの学校、あるいは学校長がよろしいということであればそれで済んでしまう状態です。指導計画は特別支援学級では義務付けられていますが、通常学級は必要ニーズのある子となっております。開示については学校任せであります。保護者のニーズを聞く場面が必ずありますので、家庭の生活や保護者のニーズを聞く機会があります。家庭との連携を取っていかないとできません。

### ○ 杉田座長

加瀬委員、よろしいですか。では最後に事務局から連絡をお願いします。

### ○ 神津課長補佐

本日は委員の皆様、様々なご意見をありがとうございました。皆様からいただきましたご意見については、センターのみならず障害者自立支援課とも共同で検討しながら、実現可能なものについては実現に向けて努力していきたいと思います。菊池委員からありましたグレーゾーンの方の支援については、野口委員からも子育て支援館の利用も含めてとございましたので、行政の縦割り部分をどう解消して行えばいいかと考えております。貴重なご意見をいただきましたので、行政の中でもどのように取り組めるのかを検討したいと考えております。

本日はありがとうございました。

### ○ 事務局（坂田）

ここで1点お知らせがございます。本日の議事録についてですが、杉田座長に内容を確認していただいた上でご署名いただき、公開することとしてよろしいでしょうか。よろしい場合は挙手をお願いします。

ありがとうございます。事務局からは以上です。委員の皆様方、長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。以上をもちまして、第7回千葉市発達障害者支援連絡協議会を終了させていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。